

知的障害者入所更生施設における入居者の生活様態と固有の居場所に関する研究

日本建築学会計画系論文集/ No.588/ pp.71-78/ 2005 年 2 月

正会員 山 田 あすか 君

本論文は、知的障害者のグループリビング型（GL 型）入所施設において、入居者が他の場所に比べて明らかに滞在時間が長い、または滞在頻度が高い場所を「固有の居場所」と定義づける方法論を準備し、参与観察を基本とした行動観察調査とその結果の緻密な分析から、固有の居場所とその選択要因を解明し、入居者にとっての環境の意味合いについて考察したものである。調査対象が 1 事例にすぎないが、この論文では知的障害者の生活と行動特性と場所の意味の関連を説得力ある分析によって解き明かすことに成功している。人間－環境系、生活環境計画の研究分野において、「固有の居場所」の概念を提起しその抽出方法を準備した点、精緻な現地調査とその結果の明晰な分析から知見を導き出した論理構成力において高く評価でき、日本建築学会奨励賞として相応しい内容であると判断できる。